

初めの一步

日本心理学会 理事長
東京大学大学院人文社会系研究科 教授
佐藤隆夫 (さとう たかお)

2年前に理事長に就任した際、日本の心理学の国際化の初めの一步として、多くの国の学会と交流協定を結んでいきたいとここに書きました。二期目のスタートにあたって、進捗状況を報告しておきたいと思います。

前期のスタート時の2011年7月には中国、韓国、オーストラリアの3ヵ国と交流協定を結んでいましたが、その後、その年の9月に南アフリカと、昨年はアメリカ (APA)、マレーシア、台湾と、今年に入ってから英国 (BPS)、スウェーデンと新たに交流協定を結びました。

調印の仕方も、それぞれの国、もしくは代表者の個性があらわれ、けっこうおもしろいものです。南アの場合、来日した南ア心理学会のクーバー氏 (現・国際心理科学連合会長) が南アの駐日大使を動員し、日心大会の懇親会の壇上で大使閣下お立ち会いのもとにものしくサインをしました。台湾では、事前に、MOUの相談をするという話で会長さんの大学に赴いたのですが、講演もしてほしいというので、その準備もして出かけました。行ってみるといきなり講堂に案内され、さあ調印式といわれてびっくり！ なんと後ろの壁には、日台心理学会友好協定調印式なんて書いた大きな横断幕まで貼ってありました。文書は、こちらから提案したもののままでしたので、まあ、いいかと調印してきました。APAの場合は、昨夏、南アで開催された国際心理学会議 (ICP) から直行でフロリダのAPA年次大会に参加したのですが、理事昼食会のテーブルの上でしたし、BPSの場合は今年4月のBPSの大会の懇親会場の廊下にテーブルを設置して役員数名が見守る中で、スウェーデンに至っては7月にストックホルムで開催されたヨーロッパ心理学会の展示会場に開設したICP横浜の宣伝ブースの中での調印というお手軽版でした。

学会間の交流協定は英語では、Memorandum of Understanding (MOU) と呼びます。初めに聞いたときには、MOU? なんじゃい? という感じでした。日本語では「覚え書き」と訳されているようです。実は具体的な内容はほとんどありません。我々はお友達です、仲良くしていきましょうといったことがもっともらしく書いてあるだけです。この2年間でMOUを締結している国の数は増えていますが、二国間の関係をどのように実質化していくかが今後の課題でしょう。韓国の場合は日韓合同シンポジウムを交代で毎年開催していますが、その他の国とは具体的な活動はこれからという状況です。この国は得意だから、任せてくれ! というような方はいらっしゃいませんか?



Profile — 佐藤隆夫

1974年、東京大学文学部卒業。1976年、東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了。1982年、米国ブラウン大学大学院修了。Ph.D. (実験心理学)。電電公社武蔵野電気通信研究所、ATR視聴覚機構研究所、NTT基礎研究所を経て、1995年、東京大学大学院人文社会系研究科助教授、1996年、同教授。専門は知覚心理学。特に運動視、立体視メカニズムの実験的解析、モデル化。著書は『心理学と社会 第1巻』(編著、ブレーン出版) など。